

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	4371200074
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会
事業所名	グループホーム ひめど
訪問調査日	平成 20 年 2 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 28 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 3月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4372300074
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会
事業所名	グループホーム ひめど
所在地 (電話番号)	上天草市姫戸町姫浦2544-6 (電 話) 0969-58-3610

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成20年2月22日

【情報提供票より】(平成20年2月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.3 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	3 階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 昼食、夕食に含む
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要(2月22日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低	80 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人翔洋会・姫戸医院 上天草市立上天草総合病院 竹中歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人病院の2階、入院病棟部分を改築して作られたグループホームは、病院待合室から、また、裏手にあるホーム玄関入口からと、職員手作りの看板と花に誘導され訪問できる。病院と直結した医療連携の安心と、周囲に民家や小学校など、地域の賑わいを感じることができ、地域密着型として強い存在感を持っている。介護に関する記録等は職員間の情報共有を図り、書式の改善や、容易に書き込めるよう記述場所を工夫する等努力が重ねられている。また、理念の検討・介護計画作成・サービスの改善など、全職員での話し合いを持ち、ケアの質向上を目指した業務対応への姿勢がみられた。管理者は職員の特徴、才能を伸ばし、各人のアイデアをサービスに活かしており、生き生きとした職員の表情からは、介護への意欲の高さを感じられる。利用者の思いを大切に介護が展開され、施設内は笑い声に包まれていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価結果は全職員で検討し、改善に向けた取り組みが行われている。また、予算が必要な事項は、次年度の予算に組み込み、年次計画にも取り上げ、確実なサービス向上へと繋がる事を目指している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>勉強会やミーティング、外部研修等で、自己評価・外部評価について学び、評価の意義は十分に理解している。評価項目一つ一つを全員が理解し、自己評価を実施している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>多方面から多くの委員参加を得ながら、現状報告・行事の報告等写真や広報誌を用いた運営推進会議を実施している。各委員からの意見は議事録で職員へ報告し、改善等の話し合いを行っている。取り組み事例として「看板が小さい」の意見には、併設医院の絵の得意な看護師の協力を得、イラスト入りの看板を設置し見易く改善し、緊急時連絡体制の改善要望には、速やかに緊急時対応マニュアルを改訂するなど、意見を大切にされた対応が図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>入居者・家族との信頼関係が築かれており、家族の訪問も多く、何でも言いやすい雰囲気作りに加え、職員からの声かけなど、受け止める姿勢を明確にした環境としている。運営推進会議や家族会など、多様に家族の意見を聞く機会を作り、要望・意見は真摯に受け止めて改善に努力しており、アンケート結果にもその対応成果がみられた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣に広報誌を配布し、グループホームの存在をアピールしている。また、職員の通勤時や入居者との散歩の際に積極的な挨拶を交わすなどの努力もあり、地域との交流が盛んになって来ている。隣接する小学校の運動会に出掛けたり、地域の行事や祭等への参加も多様に行う他、母体病院や施設からの訪問者も多く、地域の情報網が出来ている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念に、地域での人間関係を重視する方針が謳われており、グループホーム独自の理念として、入居者の思いを受け止め、自分らしく自立して暮らしていけるように「助け愛・励まし愛・微笑み愛」を掲げている。	○	グループホームでの暮らしが、地域密着型としての在り方を大きく求められており、従来の理念に、地域の中で暮らす意義を感じさせる文言が付加されると、さらに良いと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員で考えたものであり、職員の全てが理解している。異動してきた職員に対しても、理念を伝え理解を促し、実際の取り組みは、ミーティングと勉強会で理解を深める努力が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事へ参加したり、併設のデイサービスに出向くなどして、地域の人々や高齢者との交流が持たれている。また、老人会を招いての食事会や、中学生の体験学習を受け入れ、地域支援活動の報告書に記録している。さらに、接遇のロールプレイング大会を開催し、家族や地域の人達の前で「地域に開かれたグループホームを目指して」と題し発表。日々の介護の様子を披露するなど、ホームへの理解を深めてもらう努力もみられた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の項目について、職員の勉強会を実施し、その意義の理解が図られていた。検討の場では、個々の意見が表せないことを懸念し、全職員の意見を反映させたいという管理者の意向から、最初に職員それぞれに全項目を評価し、その後全員での検討を行なっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営審議会は、市役所担当者・公民館長・民生委員・婦人会・老人会長・家族・利用者等の参加を得、2ヶ月に1回開催。ホームの生活の様子や行事などを報告し、協力依頼や意見交換が行われている。意見や要望も気軽に出席され、その内容を議事録に作成。職員と協議し改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議委員として町行政からの協力を得、管理者も市の居宅介護サービス事業所連絡協議会委員として協力するなど、双方向で運営に関する助言を活かし、サービスの質向上を図る連携がとられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事の案内・報告など、写真を多く取り入れ、ホームでの利用者の様子が一目で分かる「ひだまり通信」が定期的に発行されている。また、利用者個別にアルバムが作成され、家族の了解を得、誰でも日々の様子が見られる取り組みもある。尚、家族の出入りも多く情報伝達の機会は頻繁に持たれ、訪問ができない時は電話連絡があるなど、家族との関係が濃厚で、温かい関係が継続されていることが伺えた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会等で意見や希望が伝えられる体制が整い、訪問の際には廊下に備え付けられた机でじっくり話し込んで行く家族があるなど、意見・希望が出し易い状況がみられた。運営推進会議や家族会では必ず家族の意見を聞き出し、対応と改善に努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内事業所での異動が年1回程度ある。異動の折りには、入居者に説明し挨拶するなどの心くばりをし、転出後も遊びに来るなど、断ち切らない関係作りが出来ている。また、異動してきた新任職員も、すでに併設の事業所やデイサービス等で日常的な交流を持っており、顔見知りの関係が維持され、異動での影響は見られない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関係機関誌の定期購読・合同研修会・外部研修など、研修の機会が多く作られ学びの支援がなされている。また新職員には1ヶ月間の集中研修が行なわれ、理念に基づく介護の実践をOJTで教育されている。外部研修に参加する際は、事前研修で参加の心構えを意識付けし、参加後は研修内容を振り返り、職場に活かせる点を考えるシステムが出来ている。更に伝達講習を行い、研修内容をより深く理解し、全職員への共有が計られている。	○	個々の教育計画を立てる必要性を認識されており、多様な研修に対応されているが、一人ひとりの特性や能力に応じた計画を立て、角度の異なる育成が計られると更に良いと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	既存の連絡協議会等への参加を含め、協議会の会議・研修会への参加、また他事業所見学等、様々な機会を捉え連携と交流を計り質の向上に努めている。	○	同業者の見学や実習等を受け入れる事も良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得して入所されることが大切と考え、ホームの見学から始め、ケアプランの説明など十分に行ない、グループホームで生活することの承諾を得てからの入居となるよう、努力をされている。	○	可能ならば、日帰りでの利用や短期間(ショート)の利用で、事前に馴染みの関係ができるような工夫が考えられると、更に良いと思われる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	アルバムを眺めながら、昔話や習慣などを教えて貰ったり、郷土料理や漬物作りを習うなど、入居者から学ぶとする意識が職員に高いことが感じられる。「人間とは?」「生きるとは?」と職員に問いかける入居者もあり、哲学の師となる一面も見られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話が長く持たれており、話題や行動、表情などから入居者の思いや希望を汲み取る工夫が見られた。一人ひとりに気配りしながら、家族から聴いたこれまでの生活歴を参考に、今、当人が求めていること、援助すべき事への対応に繋げ、入居者の気持ちに沿う支援が行われていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに担当職員が決まっており、担当職員が行ったアセスメントを基に、管理者が介護計画書を作成。その課程で職員全員での検討が重ねられ、チームで計画作成する体制となっている。計画は家族に説明し、同意を得て決定され、遠方の家族には電話での説明が行われている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに家族や関係者を含め、検討し見直されている。また、心身の状態に変化があった場合は、随時見直し、新たな計画を作成し、家族にも説明し同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームは病院建物の2階にあり、医師・看護師の支援体制があり、毎日の医療処置や夜間の往診にも協力が得られている。本人や家族からのかかりつけ医への通院依頼や受診の応援など、その時々々の希望・要望にも対応し、家族支援も行っている。	○	共用型デイサービスやショートステイの事業展開への検討もあり、更に多様な機能拡大が期待される。
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医や受診、通院について聞き取りを実施し、希望に添って対応している。家族が通院に同行できない場合は、職員が代行しその結果を報告している。また緊急の場合は併設の病院の対応があり、かかりつけ医との連携も取れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた入居者には、できる限り支援していく予定だが、濃密な医療行為が必要の際は、ホームでの対応に限界が予測される。本人にとって一番良い方法はどうか、その都度、職員全員と家族との話し合いで決めていく方針となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ゆったりとした優しい言葉かけで、入居者を大切にしたい対応がみられた。職員の天草弁の敬語が入居者に馴染んでおり、穏やかな笑顔に溢れていた。一人ひとりの面会簿やアルバムなど、家族の了解を得て提示され、自由に誰でも見ることができるようになっている。トイレ介助で職員が持ち場を離れる際に、他の職員に「席を外します」と声かけし、排泄を他の入居者に察知されない心くばりが見られ、プライバシーに配慮したうえでの業務確認が行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は自分のペースで自由に過ごされている。否定するでなく見守る体制が整った対応がなされ、入浴やトイレへの誘導も、無理強いせず根気よく待ち、本人の納得が得られる働きかけへの工夫が見られた。買い物・ドライブ・散歩や喫茶店への外出希望にも、天候・体調に配慮しながら実施されている。喫煙・飲酒は他の入居者の迷惑にならないよう配慮し、健康状態にも留意した上で禁止しない対応が取られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が好むメニューを取り入れながら、健康を考慮し野菜中心の料理が提供されている。柔らかさ・大きさ・魚の骨の処理など、食べ易さへの細やかな配慮が感じられた。調理への係わりは高齢者が多く、無理な面もあるようだが、それぞれの力に応じ合わせて共に行う努力をし、漬け物などは入居者に教わりながら作っている。また毎食入居者の反応や味付けの評価を記録し、献立造りに役立っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴の準備があり、希望に合わせた入浴支援が行われている。ゆっくりと入浴できる介助が心掛けられており、浴室から入居者の歌声が漏れ聞こえ、入浴を楽しんでいる様子を感じられた。入浴拒否者には無理強いせず、声掛けや対応を工夫し、気持ちよく入浴してもらえる努力が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの力に合わせた家事を見出し、洗濯物たたみ・食材の準備等と一緒にすることで、「私の仕事」と役割意識を持つ人も見られた。また、好きな絵を描いたり、習字を書き居室に飾り楽しむ人もいる。さらに、ドライブや地域の祭参加の支援もあり、折々の入居者の笑顔の写真があちらこちらに展示しており、多様な気晴らし支援の対応が見られた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望に応じての散歩や、喫茶店でコーヒーを飲んだり、車で買い物に出掛けたり、レストランで食事を楽しむ等、日常的に外出支援が行われている。マンツーマンでの外出支援や、併設特別養護老人ホームの車でドライブに行くこともあり、ホーム外への外出支援は盛り沢山に準備されている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の施錠はなく、ホームが2階のため事故防止のため玄関やエレベータ前にチャイムを設置。チャイム音で訪問者や入居者の出入りを確認し、素早い対応が行われている。ガラス越しに見える段階スペースを恐がる人の為に、暖簾で目隠しをする等の配慮もある。徘徊には母体の病院の協力体制も得、自由な暮らしの確保に努力されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体病院と共に、消防署や地域の消防団の協力を得て、年2回防災訓練を実施している。2階での生活のため、安全な移動方法を消防団に教えてもらうなど、避難体制が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎回チェック表に記録し情報を共有。摂取量の少ない人には食事や水分補給を勧め、健康状態を保つ努力が行われている。栄養バランスや摂取量については、母体施設の管理栄養士や主治医等の指導を受け、状態に応じてトロミ食やおにぎり等の対応や脱水予防の食品の提供など、バックアップ体制も構築されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく広い廊下には季節の花がふんだんに飾られ、水槽には金魚が泳ぎ、間接照明の暖かい空間が広がって、ゆったりとした家庭的な雰囲気が漂っている。勤務時間内に全職員が掃除チェック表を見て、掃除が必要な場所を判断し10分間掃除のシステムもあり、トイレ・廊下の隅々まで、気配り目配りが行届き、快適な環境が保持されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした居室は、自宅で使用していた馴染みのソファやテレビ等の持ち込みで、その人らしい居室になっている。室内には、家族の写真やホームで撮った写真、自分で描いた絵や習字、おしゃれ用の服などがあり、入り口にはお孫さん手作りの表札が貼られたり、家族の持ち込みの大きな暖簾が吊るされるなど、どの部屋も暖かい雰囲気になる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひめど
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上天草市
記入者名 (管理者)	管理者 出口清美
記入日	平成 20 年 1 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人全体の基本理念として「住み慣れた地域の中で、これまでの人間関係を保ちながら老後を過ごしていただく」があり、本事業所の基本的な重点取組として、「地域に開かれた事業運営とケアの質の向上」をあげている。その中で、入居者が自分の思いを受け止めてもらえ、自分らしく自立して暮らしていけるよう、「助け愛、励まし愛、微笑み愛」というグループホームの理念を掲げ、信頼関係の構築に努めている。</p>	<p>○</p> <p>事業所の職員一人ひとりが、このように支援していきたいという具体的な思いを表現したものを、今の理念に付け加えて、支援のあり方を分かりやすいものにしていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念はグループホームの職員全員で考えたものであり、共有できている。法人事業所間で異動してきた職員に対しても、理念を伝え、理解してもらえるようにしている。また、実際にどう取り組んでいくかについては、ミーティングでさまざまなことについて話し合いを行ったり、勉強会をする中で理解が深まるように努めている。</p>	<p>○</p> <p>理念について立ち返り考える機会をミーティングなどを利用して定期的につけていきたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>家族会や運営推進会議の中で理念や事業計画について説明を行い、協力を呼びかけている。また、廊下の見やすい場所に理念を掲げ、訪れた人誰もが目に止まるようにしている。法人事業所全体で、地域の方々や利用者を招いて毎年1回実施される接遇ロールプレイング大会においては、「地域に開かれたグループホームを目指して」と題し発表を行い、より多くの方に地域の中で暮らしていくことについて理解していただけるようにした。</p>	<p>○</p> <p>今後、広報誌にも、理念を掲載していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>毎日の出退勤時には、こちらから地域の方々へ積極的に挨拶を交わすようにしたり、グループホームの広報紙を近所に配ったりもしている。入居者の方と近隣を散歩したり、買い物などに出かけたときには、地域の方々も気軽に声を掛けてくださる。医院の2階に位置していることもあり、受診の際に立ち寄っていかれる方も居られる。</p>	<p>○</p> <p>郷土料理を作ったの食事会など地域の方に気軽に来ていただけるような行事を立案して地域との交流の機会を積極的に作っていきたい。</p>
	○地域とのつきあい		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	自治会への参加が出来ていないので、今後かかわりが持てるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	要請があり、地域のシルバーボランティア講座へ出向き話げができた。また、地域の老人会との交流のなかで、実際に来て、目で見て、時間を過ごしていただくことで「地域の中にあるグループホーム」を理解していただけるように取り組んでいる。	○	今後の取組についても話し合いを通じて取り組む内容を検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、ミーティングで取り上げ、予算が必要な部分については予算へ組み込み、年度の事業計画にも自己評価の項目を組み込み改善に取り組んでいる。また、認知症についての勉強会を実施しているが、その中で、自己評価、外部評価についても取り上げ、その意義と目的について考え、日々の支援についても、各項目を一つ一つ読んで理解していけるようにした。外部研修会にも3名参加してもらい、その上で、各職員一人ひとりが実際に自己評価表を記入し、日々のケアの振り返りを行い改善意識が持てるようにした。	○	職員の理解が深まり評価が活かせるように、勉強会を継続していきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の報告や情報交換を広報誌や写真を用い行い、参加メンバーより意見を頂くようにしている。そして、議事録を作成し、職員へはミーティングで報告し、改善への取組を話し合い、次回の運営推進会議で結果を報告するようになっている。	○	ご家族の参加が少ないので、今後参加が可能な日程などについても検討していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業運営の中で分からないことがある場合は、市の担当者に尋ねたり、助言を貰うことをしている。また、市の居宅介護サービス事業所連絡協議会でも、顔を合わせ話をする機会が持っている。	○	運営推進会議の中で助言等を頂くことがあり、サービスの向上に今後も活かして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	大まかな内容についての説明は行っている。	○	具体的に学べる機会を設けて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法令そのものを読み学ぶ機会には設けていなかったが、説明は行っている。また、毎朝の朝礼で、「法人の職員倫理規定」や「それに基づく行動指針」を読み上げるようにして、職員はそれに努めている。	○	具体的に学べる機会を設けて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業計画書や自己評価、外部評価結果などを見ていただいたり、グループホームでできること、退居を含めたところに対応が困難なことなど時間をとって説明を行い、ご家族の意向を尋ねるようにしている。退居に至る場合にも、関係を切るのではなく、今後の支援を含めたところで、ご家族と相談し行っている。	○ 今後ご家族の思いを十分に聞き、解かりやすい説明に心がけ安心していただけるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などを利用し、毎回、意見などが無いかな尋ねるようにしている。また、意見や苦情、願いなどが言いやすいよう、職員は否定的な言葉遣いをしないように心がけている。意見、願い、苦情が出た場合は、速やかに対応を行うようにしている。	○ 意見、苦情が言えない方へも、ミーティングなどで日頃の生活から推測したりして対応ができるようにしていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌の発行や、個別にアルバムを作成したりして、日々の様子を見ていただいている。また、ご本人、ご家族の状況に合わせて、連絡や報告を行うようにしている。金銭管理は金銭出納帳に記入し、ご家族にサインをいただくようにしている。	○ 今後も定期的な報告を心がけて行きたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、事業所以外に苦情受付窓口があることを説明している。また、家族会、運営推進会議などでは、意見を言ってもらえるように働きかけをしている。そこでいただいた、意見、要望、苦情については、速やかに対応を行うようにしている。	○ 意見、不満、苦情が言える機会を増やして行きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングや勉強会、半年に1回個人面接で意見を聞くように心がけている。	○ 職員の意見や提案を事業計画に活かすなどしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や必要に応じて、職員確保が出来るようにシフトを組むようにしている。また、管理者は状況に応じた対応が出来るように、通常のシフトには組み入れていない。	○ ミーティングを利用して、今後も継続していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所間の異動で職員が変わる場合には、入居者へ説明を行い、職員が挨拶をするようにしている。また、異動になった職員も、時間があるときには入居者へ会いにきたりしている。	○ 職員異動があった場合でも、ケアの内容が変わる事で大きな影響を受けられないよう、個別計画やマニュアルの作成をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士のテキストや、介護関係の本を定期購読できるようにしたり、常勤職員だけでなく、パート職員もチームの一員として、研修会・会議へ参加し学ぶことを推進し機会を作っているようにしている。	○ 今後は個人ごとに計画をたて実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上天草市居宅介護事業所連絡会研修会の参加や天草圏域の同業者の研修会、県介護福祉士会の会議・研修会への参加、他事業所の見学等を通して質の向上を目指している。	○ 今後も継続していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時間内には、職員が心身を休めることができるよう、入居者と離れた部屋で気分転換を兼ね休憩を取ってもらっている。勤務シフトについても、休みの希望を聞いて作ったり、公休の次の日には、遅出勤務とし、続けて休息が取れるようにしている。	○ 入居者様が重度化した場合は職員の負担が重くならないよう意見を求めるようにしているが、今後は意見を反映した体制作りをしていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員より資格取得の希望があった場合は、その勉強会へ参加できるようシフトを組んだり、テキストを購入したり支援を行っている。また、人事考課制度により職能評価ができるシステム作りがなされている。労働基準法に則って、就業規則が定められ労働条件が整えられている。	○ 継続的に取り組んで行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人に会って話を聞き、生活状況等をアセスメントし、意向を聞くなどし信頼関係を作ることに努めている。	○ 継続的に取り組んで行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでの状況や意向について時間をとり聞くようにしている。	○ 継続的に取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けながら、思いや状況などを確認し、場合によっては地域包括支援センターや他の事業所のサービスへつなげるなどの対応をしている。	○	継続的に取り組んで行きたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所を見学してもらったり、事業所のケアのあり方を説明したり、ここで生活することについて納得してもらってから入居していただいている。	○	継続して取り組んで行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活する中で、生活体験を聞いたり、慣わし風習や郷土料理について教えてもらったり、自然におこなっている。	○	継続して取り組んで行きたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事には家族にも協力してもらったり、利用者の状況についてアドバイスをもらったりすることもある。敬老会・誕生会には家族に来ていただき一緒にお祝いし喜びを分かち合っている。	○	これからも継続して行きたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を報告・相談したり、行事への参加依頼や外出・外泊で家族と一緒に過ごす時間を作ってもらったりしている。	○	継続して取り組んで行きたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの行きつけの美容室を利用してもらったり、地域の行事へ参加してもらったり、継続的な交流が出来るようにしている。手紙や電話への支援協力も行っている	○	継続して取り組んで行きたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の一人ひとりの性格や入居者同士の関係性、日々の様子を把握し、毎朝・夕のミーティングや毎月のミーティングで情報共有し、入居者間のトラブルを防止し円滑になるようにしている。	○	継続して取り組んで行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されても、何かあればいつでも相談にきていただけるよう話をしたり、こちらから様子をうかがったりしている。	○	継続して取り組んでいきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	通常の何気ない会話を大事にし、行動や表情などからも希望、意向を汲み取るように努めている。	○	継続して取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	通常の会話の中から、若い頃の生活や暮らしなどを学ぶ姿勢で引き出すように努めている。また、ご家族等にも話を聞くことで、その人ならの生活が実現できるように努めている。サービス利用の経過については、入所時に把握するようにしている。	○	継続して取り組んでいきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の中で、それぞれの職員が気づいたことについては、職員間での申し送りなどで共有し把握に努めている。気づいたことなどは、ケース記録等に記入し、定期的なサービス計画の見直しに活用するようにしている。	○	継続して取り組んでいきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、担当職員がアセスメント表を記入し、全員に見てもらい確認し、介護計画書の作成についても、原案作成後に全員で目を通すようにしている。また、ご家族に介護計画書を見ていただき、意見を求めるようにしている。	○	継続して取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うようにしている。また、途中心身の状態に変化がみられた場合や、早急に必要があるときは、ご家族、関係者を含めたところで話し合い見直しするようにしている。	○	継続して取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にアセスメント・介護計画書を一緒に綴じ、変化や気づきがあった場合は、記入してもらうようにしている。また、個別のチェック表を作成し、いつでも状態が確認できるようにしている。このような記録を元に日々の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。ケース記録は勤務前の確認を義務付けている。	○	記録の工夫をしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況、その時々々の要望に応じて、現時点でできる範囲で柔軟に支援している。	○	共用型デイサービスやショートステイ事業などについても、3年を経過した時点で検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向を確認しながら、町内の保育所、小学校・中学校・公民館・老人会などと協力し、地域での接点作りの場を設けるようにしている。	○	今後も継続していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用されている方は居られない。	○	今後要望があれば実施していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在協働して取り組んでいる状況は無い。	○	今後必要性を検討しながら実施していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医や受診、通院についてうかがいそれに副うようにし、ご本人ご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院も本人・ご家族の希望に応じて対応している。受診・通院にご家族が同行できないときは、職員が代行し、その結果を報告している。	○	今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後も連携しながら取り組んでいきたい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後もよりよい関係が取れるよう連携していきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後も連携を大切にしていきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	高齢の方が多いため、重度になられた場合の方針や対応について、勉強会をしていくと共に、職員間でも話し合いの機会を増やしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	継続していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	日頃より、他の関係機関との繋がりがもてるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇研修や朝礼での「職員倫理規定」や「職員倫理規定に基づく行動指針」の読み上げなどで、常に意識づけを行っている。失禁されている方や食事のこぼしの多い方への対応には特に気配りをするようにしている。また、個人情報については、個人情報保護規定に基づき適切に対応するように職員にも指導している。	○ ミーティングなどで日頃のかかわり方について振り返ったり、職員間でもお互いに注意しあえる環境を継続していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	「お風呂に入りませんか」「ドライブへ行きませんか」など自分の希望を言い易い話し方をしている。また、食べ物、飲み物、入浴時の湯温など選べる場面作りや、希望を言える機会を作るようにしている。	○ 日々の密接な関係や馴染みの中で、解かっているつもりになっているところはないか、確認して見直していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出の希望があれば、ドライブ、買い物、散歩など体調に配慮し対応している。申し出にすぐに応じられないときは、理由を説明し時間や日にちをずらすなどの対応をしている。	○ 入居者様より気軽に声を掛けていただけるよう、忙しくバタバタした雰囲気を出さないようにしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えでは着たい服を選んでいただいたり、服を買いに出かけたりしている。また、整髪やシェービング、衣服の乱れはさりげなく整えたりの支援を行っている。理美容室は以前からの行きつけや、本人に希望を聞いて利用している。	○ 化粧をしたり、マニキュア等して時々おしゃれを楽しんでいただけるようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューについては大まかに決めているが、その日に食べたい物や頂いた食材があるときは変更している。調理についても、野菜の皮むきや下ごしらえ、味付けなどそれぞれの力に合わせていただき、毎食、入居者の反応や味付けなどの評価を記録している。一人ひとりの嗜好を把握し、嫌いな物がある場合は、代替食を準備している。また、梅干やラッキョウ漬け、漬物など入居者様と一緒に作っている。盛り付けはほとんどを職員が行っている。	○ 入居者様より、食べたい物の希望をもっと聞きだせるようにしたい。また、台所の中に入って一緒に準備したり、盛り付けしたりする機会を増やしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎週木曜日にはパン屋さんの訪問があり、希望のものを購入していただいている。タバコについては、喫煙所を限定し、火災に配慮した対応を行うようにしている。たまには、喫茶店やパン屋さんに出かける事もある。飲酒については、希望があった場合に対応し、こちらからの働きかけはしていない。	○ こちらからの積極的な働きかけを今後もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用し、尿意のない方にもトイレで排泄できるよう支援している。また、夜間と日中で排泄用品を変更したり、紙パンツ使用されたい方が、下着にパッドでよくなったりと随時見直しを行っている。	○	今後も職員間で細かな情報を共有し見直しを継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に毎日入浴準備をしている。毎日全員入浴することは出来ないが、希望やタイミングにあわせるように努力をしている。入浴剤を使ったり、希望の湯温にしたりとゆったり入浴できるようにしている。入浴拒否が強い方へは、足浴から始めたりと気持ちをほぐし無理強いしないようにしている。	○	現在、夜間入浴が出来ていないが、希望があれば検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	必要ないときはテレビを消したり、職員も騒々しく話したり動き回らないようにし、穏やかな時間が過ごせるようにしている。夜間も眠くなるまで、リビングでお茶を飲んだりテレビを観たりして過ごされている。朝も、起きてこられるまで休んでいただいている。	○	休息、安眠については、職員の接し方にも影響があると思われるので、今後も職員間で検討しながら支援していきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力に合わせて、洗濯物たたみや干したり、食事の下ごしらえを頼み感謝の言葉を伝えるようにしている。また、それを自分の役割として積極的にされている方も居られる。気候が良い日にはドライブしたり、地域の行事に参加したりしている。好きな絵を描いたり習字を職員に見せてくださったりもある。	○	外出の機会を増やしたり、日々の中で、潜在的な能力がないか会話やご家族からの聞き取りなどから、個別に引き出し支援が出来るように検討していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思とご家族の理解により、外出での買い物や飲食、病院受診料など自分の財布から支払いをされている。	○	外出先や、買い物など、自分で支払いが出来る楽しみを、今後もご家族の協力を得ながら支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事への参加や、喫茶店、買い物、ドライブなど希望があれば、なるだけ当日に外出できるようにしている。出来ない場合は日を改めて、出かけられるようにしている。	○	お弁当を持ってのドライブなど、外出のかたちを色々変えて楽しんでいただけるよう支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	町外の芝居見学や、スーパーなどへ出かけたりしている。また、ご家族へ協力の依頼も行っている。	○	希望が引き出せるような働きかけをして、早めに計画をたて安全に楽しんで外出できるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の子機を利用しご家族からの電話の取次ぎや、電話を掛けるなどの支援をしている。聞き取りが難しい場合は間に入りコミュニケーションの支援をしている。自室でゆっくり遠方のご家族との会話を楽しまれることもある。また、代筆や郵便物の投函の支援をしている。	○	今後も継続していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は特には定めておらず、都合の良いときに尋ねてくださるようにしている。居室でくつろいで過ごしていただけるよう、お茶などをだし、気兼ねなく来ていただけるようにしている。食事時間帯の面会では、一緒に食事を勧めている。	○	病院の2階にあるため、気軽に立ち寄れないこともあるので、地域の方へ、もっと立ち寄っていただけるような機会を作っていきたい。
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設での職員全体会議や、毎月の会議での勉強会や朝礼での意識付けを行っており、言葉遣いにも気を配るようにしている。日々の支援の中では、歩行バランスのよくない方の徘徊へは、危険がないようさりげなく付き添ったり、車椅子の方へは、滑り落ちがないよう、姿勢に目配りしたり、頻繁に立ち上がりのある方へも転倒されないよう見守りを行っている。	○	日々の支援の中で、気づかないうちにしていないか、常に意識し、職員同士で相互注意をしたり、細かなことに気づける目を養うためにも定期的な勉強会が今後も必要であるので、継続していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関ドアやエレベータ前にはチャイムを設置し、外出されそうなどときには、さりげなく声をかけたり、一緒についていくなど安全面に配慮した支援を行っている。しかし、一緒についていけないこともあり、姫戸医院の協力を頂くこともある。	○	出来る限り自由な暮らしとなるよう今後も努めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はリビングにいる職員が見守りと居場所の把握をするようにしている。居室で過ごされているときにも、定期的に訪問し、状態に合わせて声かけをしている。夜間も入居者の様子が把握できる場所で待機するようにしている。夜間帯は職員が一人での対応となるため、転倒リスクの高い方へは、ご本人、ご家族の了承を得てセンサー設置している。しかし、複数人が重なった場合は対応できないときがある。また、ヒヤリ・はっと報告書や予防・是正、事故報告書を活用し状況を把握するようにしている。	○	入居者様が見られているという意識をもたれないよう、安全に配慮していく。また、今後もヒヤリ・ハット報告書や予防処置報告書などを活用していきたい。
	○注意の必要な物品の保管・管理			

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	消毒薬などは鍵のかかるロッカーに保管し、薬品は一定の場所に保管している。包丁などは時間を決めて本数を確認するようにしている。調理の際、包丁を使われるときは職員が付き添うようにしている。また、ヒヤリ・はっと報告書や予防、是正、事故報告書を活用し危険を防ぐ取組をしている。	○	今後も危険物の整理整頓を継続し、ヒヤリ・はっと報告書を活用しながら継続的に取り組んでいきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時対応マニュアルや服薬マニュアルを作成している。また、ヒヤリハット報告書を作成し、定期的に予防措置を図っている。母体施設の看護師より服薬についての勉強会を実施したり、毎食前の誤嚥防止の体操などもおこなっている。防災については、地域消防団と合同での避難誘導を含む総合訓練を実施し、グループホームの場所、配置についても理解していただいた。また、防災訓練時には消防署より火災防止についての話をしていただいた。しかし、知識として不足している部分が多い。	○	今後知識が不足している部分については、年間学習予定の中に組み込んで学び、マニュアル作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な緊急時対応マニュアルの反復訓練や、消防署の応急手当講習会を受講している。また、半年に1回防災訓練やエレベータ救出訓練を行っている。	○	実際に確実に出来るためには、繰り返しの訓練が必要であるので、今後も実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し入居者様や姫戸医院の職員さんと共に避難訓練を実施している。また、地域の消防団の協力を得て、防災訓練を実施した。	○	今後も地域の方の協力を頂きながら定期的な訓練の実施とマニュアルの見直しなどを行っていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要に応じて転倒などのリスクや身体状況について報告し、グループホームの対応について説明を行ったり、リスクのある箇所を見ていただきながら、相談をしたりしている。	○	職員だけで抱え込まず、ご家族と知恵を出し合い対応策を考えるようにしていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝・タバイタルサインチェックや体調の聞き取りを行ったり、食事量や排泄の状況などを記録することで全員が情報を共有し、いつもと違う変化があった場合は速やかに医療機関へ連絡を行うようにしている。出勤したらケース記録に目を通すことを義務付けている。	○	今後も継続していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や使用薬剤情報書を個人ごとにファイルし、服薬チェック表にて確実に支援が出来るようにしている。状態の変化が観られた場合は速やかに主治医への報告をおこなっている。また、母体施設の看護職員の協力を得て勉強会を実施した。	○	今後も継続していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	主食には麦を混ぜ、野菜が多めに取れる献立の工夫を行っている。水分補給については、チェック表を用い1日の水分量を把握するようにしている。便秘の原因や及ぼす影響についての具体的な理解はできていないように思う。	○	便秘についての勉強会を実施していくと共に、便秘予防の運動、体操も実施していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝、昼、夕口腔ケアを支援している。入れ歯使用の方は、洗浄剤でつけ置き洗浄している。口腔ケアの研修会へも参加している。	○	口腔ケア用品をそろえ、口腔ケアを今後も支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎食チェック表に記録し、情報を共有し不足がある場合は対応を検討している。偏った食事をされる方へは、声かけなどを行ったりし、食べていただく支援を行っている。栄養バランスや一日の摂取量、疾病に応じた食事など母体施設の管理栄養士や主治医に指導してもらいながら支援している。	○	調理や栄養についての知識が不足している職員もいるので、再度勉強会を実施していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症マニュアルを元に定期的な勉強会を実施している。また、感染症の指針を作成し、定期的な感染症会議を開催している。日常では、時間ごとの換気や手洗い・うがいを実施している。また、インフルエンザの時期が近づくと、予防接種を受けている。	○	マニュアルどおりに実施できるようにしていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫を2台準備し、加熱して食するもの、そのまま食するものと分けて保管している。また、食品を開封したときは、日付を記入し管理に注意している。生鮮食品の買ひだめはしないようにしている。	○	食品庫や冷蔵庫、台所の床の清潔も心がけていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1階玄関には季節の鉢花を置いたり、2階へ上がる階段部分には絵を飾ったり窓にカーテンをかけたたり雰囲気作りの工夫をしている途中である。	○	玄関ドアが殺風景なので温かく親しみやすい雰囲気を出して行きたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きい窓と、間接照明により明るい雰囲気となるようにしている。日が差し眩しく感じるときはレースのカーテン等で調整している。七夕、クリスマス、正月などには季節にあった装飾を施している。また、季節の草花を生けるようにしている。	○	トイレと浴室は生活感にかけるところもあるので、家庭的な雰囲気が出せるよう、入居者様と一緒に考えていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごすだけでなく、廊下のソファや机に座って過ごしたり、談話コーナーを利用したり思い思いに過ごされている。	○	談話コーナーがもっと活用できるよう工夫していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からは、日頃使っていた、タンスやベッド、ソファーを持ち込まれたり、グループホームで撮ったお気に入りの写真や家族写真を飾ったり、ご家族、ご本人と随時話をしながら工夫をしている。	○	居室が広いので、広い空間をいかした、居室作りをご本人・ご家族と相談しながら行って行きたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決めて室内の換気を行っている。また、居室にもエアコンがあり、こまめに温度調節している。また、寒い、暑いのは感覚は入居者様に尋ね対応している。	○	冬場の換気は冷気が入り込むため、入居者様の理解を求めながら今後も継続していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハット報告書のデータから、事故につながりそうな場所には手摺りを設置したり、また、ご本人の状態に合わせ、居室の段差解消や手摺りを設置したりしている。	○	トイレや浴室などの環境の見直しもおこない、手摺りなどの追加工事を検討していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	廊下が長く、居室ドアは同じ色・形で、分かりにくいので、暖簾をかけたり、ネームプレートを作成したり分かる工夫をしている。また、行事や誕生会の前にはポスターを掲示したり事前に分かるようにしている。	○	トイレの場所がわかり難いので、解かりやすい工夫をし行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上に気分転換に出たり、野点や茶話会をしたり活用している。	○	屋上は広いのでくつろげる空間をつくったり、環境整備を行い、もっと有効に活用できるようにしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)